

# 施餓鬼会祭文

維れ平成二十七年盂蘭盆会を営むに当り謹しんで香花・茶菓・

百味・五菓の稀膳を備えて一切の飢類に供ず。

茲に南閻浮提大日本国近江の国、栗東市安養寺、天平の昔し

より真言宗きつての古刹なり。東方山安養寺観音堂に於いて熊谷

俊亮住職、僧侶、某甲そしてご詠歌大師流慈苑講山下登美宗大

梵詠の講中の面々、恭しく現前の清衆を率い本尊觀世音菩薩の

宝前に詣り、微供を弁じて普く恒沙の功德を施し、法施を加し

て四来の群類を救はんものなり。

竊かに惟れば抑々施餓鬼の法といふば、苦海を渡る船筏、楽岸

に到るの津梁なり。これに依って高祖弘法大師は帳に録して七魂

を弔ひ、源仁僧都は名を列ねて迷靈資く。先賢既に斯くの如し、

後愚蓋ぞ勤めざらんや。

往昔、インドにおいて釈迦の弟子で神通力第一と称されし目犍

蓮・目連尊者は、非母青提女の飢勞を救わんと欲して、釈迦如

来の勅命を受けて盂蘭盆会を営み設け、苦倒懸器の餉を備ふ。か

の古風を扇いで施餓鬼の軌則を調べ、その旧流を汲んで過去帳の

記録を致す。いた

爾れば則ち芬芳の妙花を捧げて精霊に播し清浄の冷水を掬く

んで七魂に灑ぐ。方に今、名字を呼んで梵鐘を鳴らし、人数を拾ひろ

うて回向を施す。先ず三国伝灯顕密の諸大師、一字教授祖師先せん

徳、七世の父母、殊には今日の施主各々志を運んで念ずる所の一ひと

切精霊、六親眷属親昵同朋同侶、一宿多年志施檀越、おのおの

一文半偈結縁の弟子、そして当山においては、安養寺を四十数年い

間に亘り護持され、俊亮住職と一体になり助教されし直子寺族夫むすこ

人、法号寂光院覚苑慈祥大姉の霊位を弔う。さらに念ずるとこのじやうこういんかくおんじしやうだいし

その他在々処々鬪諍合戦か群霊、年々歳々餓死病死の幽魂、或あるい

は有縁無縁隔りを捨てて弔ふ所の七魂、その数誠に繁多なり。翰かん

墨に違あらず。ぼく いとま

皆この砌普ねく来って当会に集り同じく甘露の法味を嘗めてみぎりあま どうえ かんろ ほうみ な

餓鬼饑饉の苦しみを離れ、解脱の法楽を受けて浄土の楽しみに到いた

らんことを。

仰ぎ願はくは微志の善根を以って早く感応の誠を垂れ給え。願あお びし ぜんこん も かんのう た

はくば受け給わらんことを。

乃至法界 平等利益

これとき

惟時平成二十七年八月二日

京都府向日市

亀光庵住職

土口哲光

謹しんで疏しるし、

申す。